

この度の東日本大震災で被災された皆様、犠牲になられた皆様に、心からのお見舞いと哀悼の誠を捧げます。また被災地の内外を問わず、全国の看護職の皆様から多大なるご支援を賜り、心から敬意と感謝を申し上げます。

被災直後は私も党内の緊急災害対策本部の医療班として、被災地からのニーズに沿った物資・医薬品等の手配や運搬に微力ながら携わらせていただきました。行政は混乱し、被災地の情報が正確に把握できない中、私にとって大きな力となったのが、全国の看護職から寄せられた被災地域の詳細な情報でした。「全国に仲間がいる」、私はあらためて看護職のネットワークの大きさを感じました。

現在、国会では会期が延長されており、震災対策関連の法案の成立を進めながら、一日も早い復興に向けてあらゆる力を集結して臨まねばならない状況となっています。この連盟だよりがお手元に届く頃には、復興へ向けての具体的な施策が着実に進められることを願うばかりです。そして被災地をはじめ日本がこの先着実に復興していくには、いつも献身的で努力を惜しまない看護職の皆さんにこそ日本が元気になる鍵がある！と私は大いに期待しております。どうかみんなで力を合わせて、この国難を乗り越えていけるよう共に頑張ってまいりましょう！

がんばろう日本、必ず復興します！

3.11に発生した平成の国難は今だ進行中です。この間、看護職の皆様には過酷な惨状にひるむことなく、また苛酷な業務にも劳苦をいとわず、日々たゆまぬ努力でご支援を続けていただいております。みなさまの深い思いやりと真摯な活動姿勢に、衷心より感謝を申し上げます。

さて、「人の生きる力を守る」看護のパワーを「社会の生きる力を創り出す」政治へと活かす」第一歩を踏み出した日から早や一年が経ち、二年目がスタートしました。

参議院議員としての最初の一年を振り返ってみると、初めて臨む臨時国会では自らの歳費を削減する法案を決議し、続く厚生労働委員会の初質問では看護界の現在・過去・未来に共通する構造的な課題を明示し、次代に対応できる新たな社会保障体系を構築する政策の立案を急ぐよう提案しました。

同時に党では、女性局長代理として全国約39万人に及ぶ自民党女性たちの意見を集約して組織の活性化を図る任務にあたっています。年明け3月4日には、厚生労働部会と同部会看護問題小委員会合同による「穏やかな最期を保証するコミュニティづくり」に関する中間報告を取りまとめました。さらに看護職の先輩たち仲間たちが長年培ってきた看護問題対策議員連盟（看護連）については、会員拡大を図り、同僚議員等とともに各地の看護の現場へお邪魔してご意見を頂戴するなど、実際の業務を見て解決策を考えていただく活動も始めました。

人々の健康的な暮らしを実現するために必要な看護職だからこそ言えること、やらねばならないことが山積しています。大震災の残痕から、愛する故郷日本の暮らしを取り戻す戦いもまた、この時代に生きる私たちに与えられた試練の一つと受け止めています。

みなさまとともに、我らが行く先をしっかりと見据えて、地に足の着いた活動を心がけて参ります。

看護職こそ 復興の要



衆議院議員

あべ俊子

地に足の着いた 活動を



参議院議員

高階 恵美子